

つながり

五中校区通信先生向け
小中一貫教育推進コーディネーター

Zoom 会議のアンケートへのご協力ありがとうございました。いただいた内容をいくつかご紹介させていただきます。進路担当や支援担任などの意見を参考にして回答させていただきました。
市教委に向けられたご意見には回答できません。ご了承ください。



【学力について】

子どもの学力
が低い。



学力差が大きい。ちょうどよい難易度の
発問をつくるのが難しい。

おそらく、日々子どもたちのために「わかる授業をしたい」と頑張っておられる先生の率直な悩みだと思います。時間をかけて授業準備をし、一生懸命授業をしても、目の前の子どもたちが「わかってくれない」、「学ぼうとしない」、「一向に成績が上がらない」となると先生のモチベーションも下がってしまいますよね。しかし、五中で卒業を迎える3年生の姿を見て、日ごろ先生方が根気強く実践していただいていることが成果として表れていると思います。小中ともに先生方には自信をもっていたきたいと思います。大部分の子どもが自分に合った進路を見出して卒業していきます。その基盤には、幼児期や小学校からの積み重ねがあり、それが中学校の進路指導にも活かしているのだと思います。

ぜひ、これまで同様、目の前の子どもたちに向き合って、自信をもってご指導いただければと思います。夏休みには「進路に関する校区研修」を企画しています。進路について知り、小中の先生で交流することで、9年間を見通した学びの実現を目指していきましょう。

【テストについて】



小学校では困っている子どもに個別の対応をしている。たとえば、テストで書くことに自信のない子どもへはあらかじめ確認したうえで答えを選択できるようにヒントを書いていたたり、別の時間にできなかった課題をしたりなどしている。中学校ではそれらのことは難しいときいたのでギャップがあると感じている。

高校受験で認められていない配慮を中学校の定期テストで実施することは難しいのが現状です。したがって、中学校では基本的に「進路を見据えたテストの受け方」を選んでもらっています。ただし、その子の希望する進路先が、合否に内申点が関わらない学校（支援学校や一部の通信制高校）の場合などは、別テストを実施するなど、小学校と同じような配慮をすることもあります。

また、普段の授業中に実施される小テストや実技テストでは、自分で適切な課題を選択したり合理的配慮を実施したりできるように、他教科を参考にしたりそれぞれの教科で研鑽に励んだりしています。

これに関しても小中の先生で交流を進めることで、実践のヒントが見つかったり新たな発見があったりするのではないのでしょうか。

【こんな前向きなご意見もありました!】

人間関係づくりや人権学習について連携していきたいです!



小学校の丁寧な授業づくりを勉強したい!

小中連携の担当の先生とお話する機会が増え、私自身が小学校のことを知れるようになりました。知ると見方・考え方が変わってきます。人権学習と同じように、まずはお互いを知ることが大切だと身に染みてわかりました。今後も通信で発信させていただきますが、やはり直接いろいろな先生とお話したいなと思います。ぜひよろしくをお願いします。

